

# 中間評価シート

## 中間評価（表紙）

### 宇治市歴史的風致維持向上計画(平成24年3月5日認定) 中間評価(平成24年度～30年度)

■ 統括シート(様式1).....	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 宇治の歴史・文化を分かりやすく情報発信する.....	3
II 伝統文化・伝統行事の継承と振興を図る.....	4
III 多様な歴史的遺産の保存・活用を推進する.....	5
IV 宇治らしい景観の保全・修景を図る.....	6
V 歴史のまちにふさわしい観光振興を図る.....	7
■ 波及効果別シート(様式3)	
i まちづくり活動の活性化.....	8
ii 宇治茶のブランド価値の向上.....	9
iii 探究的な学習の充実.....	10
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A 情報発信・観光交流施設整備事業.....	11
B 史跡整備事業.....	12
C 重要文化的景観保存事業.....	13
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1 遊覧と参詣 宇治川河畔の歴史的風致.....	14
2 茶どころ宇治の歴史的風致.....	15
3 宇治に伝わる祭礼の歴史的風致.....	16
■ 庁内体制シート(様式6).....	17
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7).....	18
■ 全体の課題・対応シート(様式8).....	19

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
<b>① 歴史的風致</b>			
	歴史的風致	対応する方針	
1	遊覧と参詣 宇治川河畔の歴史的風致	I・III・V	
2	茶どころ宇治の歴史的風致	I・II・IV	
3	宇治に伝わる祭礼の歴史的風致	II・IV	
4			
5			
<b>② 歴史的風致の維持向上に関する方針</b>			
	方針		
I	宇治の歴史・文化を分かりやすく情報発信する		
II	伝統文化・伝統行事の継承と振興を図る		
III	多様な歴史的遺産の保存・活用を推進する		
IV	宇治らしい景観の保全・修景を図る		
V	歴史のまちにふさわしい観光振興を図る		
<b>③ 歴史まちづくりの波及効果</b>			
	効果		
i	まちづくり活動の活性化		
ii	宇治茶のブランド価値の向上		
iii	探究的な学習の充実		
<b>④ 代表的な事業</b>			
	取り組み	事業の種別	
A	情報発信・観光交流施設整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	史跡整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
C	重要文化的景観保存事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
方針	I 宇治の歴史・文化を分かりやすく情報発信する	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】本市の歴史・文化に関する情報発信については、宇治茶の歴史や文化を総合的に伝えることや、宇治の歴史・文化に関する背景やストーリーを分かりやすく発信することが現状ではまだ十分ではない。

【方針】歴史の重層性や継承される伝統文化を、総合的に広く分かりやすく情報発信する必要があり、近年の調査結果を反映し内容充実を図る。特に、宇治茶の歴史や文化、価値を伝えることで、宇治茶に対する市民意識の向上に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	情報発信・観光交流施設整備事業	歴史公園整備 基本設計(H30～)	あり	H27～R2
2	宇治茶普及啓発事業	宇治茶まつり参加者 約16万人(H24～30)	あり	H23～
3	宇治川鶴飼助成事業	平均乗船者(日) 76人(H24)⇒88人(H30)	あり	H23～
4	宇治十帖スタンプラリー開催	踏破者 約11万人(H24～30)	あり	H23～
5	歴史・文化啓発事業	フォーラム・出前講座開催 16回(H24～30)	あり	H23～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●宇治茶普及啓発事業

「市民茶摘みのつどい」では、手で摘む茶摘みを実際に体験してもらい、宇治茶に対する市民意識の向上を図ることができた。また「宇治茶まつり」、「市民素人茶香服大会」の実施により、市民や来訪者に宇治茶への親しみや理解を深めることに寄与した。

●宇治十帖スタンプラリー開催

宇治十帖の古跡をめぐるスタンプラリーを開催し、宇治川河畔の歴史や文化に触れる機会の創出につながった。

●歴史・文化啓発事業

重要文化的景観フォーラムや出前講座を開催し、郷土の歴史と身近な文化財への理解を促すとともに、地域の伝統文化の継承への意識を高めることができた。



宇治茶まつりの様子 H29.10



重要文化的景観フォーラムの様子 H30.11

④ 自己評価

様々なイベント等を通じて、宇治市の歴史・文化や宇治茶に関する情報発信を行うことができた。

しかしながら、平成29年度に実施した「市政モニターアンケート」では、「宇治茶」や「宇治の歴史」に関する情報発信に対して十分であると感じている市民は3割程度に留まっており、引き続き分かりやすく情報発信を行う必要がある。

⑤ 今後の対応

・史跡宇治川太閤堤跡及びその隣接地において、宇治の歴史や文化を情報発信する。(仮称)お茶と宇治のまち歴史公園の整備を進めており、開園後には民間事業者との連携による幅広い情報発信を進め、市民意識の向上に努める。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
方針	Ⅱ 伝統文化・伝統行事の継承と振興を図る	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】古くは茶の産地として、茶園景観が市街地や近郊集落に広がっていたが、都市の発展とともに茶園が減少し、近年は横ばいであるものの、茶どころとしての茶業の振興とともに、本質の技術伝承が課題である。また、伝統行事の担い手の高齢化や生活様式の変化、娯楽の多様化などにより、伝統行事への参加者が減少し、簡素化や存続困難な状況が見受けられる。

【方針】宇治茶発祥の地としての歴史と伝統文化の継承を図り、宇治茶ブランドの向上に努めることで、茶業の振興を図る。また、地域の伝統行事は、地域コミュニティを維持する重要な役割を果たしており、住民の関心と意識を高めるよう周知を図るとともに、市民主体での学習や取組を推奨し、担い手育成に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	宇治茶園支援事業	伝統技術継承実施 136件(H24～30) 手摘み茶推進実施 234件(H24～30)	あり	H23～
2	宇治茶品質向上事業	茶品評会 受賞実績 338点(H24～30)	あり	H23～
3	市営茶室対鳳庵活用事業	入席者 11,306人(H23)⇒23,354人(H30)	あり	H23～
4	文化財指定推進事業	無形民俗文化財等補助 30件(H30)	なし	S50～
5	日本遺産認定の取組	「日本茶800年の歴史散歩」 日本遺産認定(H27)	なし	H27～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●宇治茶園支援事業

宇治茶の伝統的茶製法である「本質」による生産の支援や、茶摘み時期に必要な「お茶摘みさん」の斡旋の支援を行うことで、本質栽培の保存や技術継承及び手摘み茶の推進につながった。

●宇治茶品質向上事業

茶品評会への出品を推奨することで、生産者の生産意欲を高めるとともに、宇治茶の伝統的茶製法の継承につながった。

●市営茶室対鳳庵活用事業

宇治茶及び茶道の普及並びに観光の振興を図るために、市営茶室「対鳳庵」を設置しており、宇治茶を提供することにより、宇治茶の普及及び観光の振興を図ることができた。

●文化財指定推進事業

宇治市指定無形民俗文化財の大幣神事の運営に対する補助を行うことで、伝統行事の保存・継承に寄与した。

●「お茶の京都」ターゲットイヤーに係るイベント実施

関係する市町村で実施されるお茶の文化・魅力を発信するイベントに参加し、宇治茶の積極的なPRを実施した。



「お茶摘みさん」を募集するチラシ



宇治市茶品評会の様子

④ 自己評価

宇治茶園支援事業等の実施により、「本質」の技術伝承や生産者の生産意欲の向上につながった。また、お茶の京都ターゲットイヤーに係る各種イベントの実施により、宇治茶のブランド価値を高めることができた。

⑤ 今後の対応

引き続き宇治茶の伝統的茶製法の継承に努めるとともに、更なる宇治ブランドの確立に向け、生産農家の後継者育成を図ることをはじめ、様々な取組を推進していく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
方針	Ⅲ 多様な歴史的遺産の保存・活用を推進する	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】本市には極めて価値の高い文化財と併せて、身近に継承されている歴史・文化遺産が多く存在するが、気付かれていないことが多く、古民家や宇治の個性を表す建造物の調査や検証が不足している。

【方針】未指定の歴史的・文化的価値を有するものは、調査・検証により積極的に文化財指定を行い、既存の指定文化財とともに保存と活用を推進する。また市民による身近な歴史・文化遺産の掘り起こしと活用のための制度の検討を行い、文化財に対する再認識と再構築を図り、文化財を支える社会的環境づくりに取り組む。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	宇治上神社拝殿ほか屋根葺替修理事業	檜皮葺屋根等の修理完了（～H26）	あり	H24～26
2	史跡整備事業	遺構再現パネルの制作・設置等	あり	H25～R2
3	空き町家の活用検討調査	空き家対策の組織体制を確立（H30）	あり	H27～
4	文化財見学会	一般公開 年2回（H24～30） 文化財見学会 年1回（H24～30）	あり	H23～
5	文化財の指定	重要文化財：松殿山荘（H29）、史跡：宇治古墳群（H30）、名勝：宇治山（H30）	なし	H29～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●宇治上神社拝殿ほか屋根葺替修理事業

宇治上神社拝殿ほか屋根の修理等を実施したことにより、文化財の保存と価値の継承を図ることができた。

●史跡整備事業

史跡宇治川太閤堤の整備に向け、遺構再現パネルの製作・設置を行うとともに、遺構のスケール感を体感することを目的としたデッキの設置や太閤堤フォーラムを行うことにより、史跡の歴史的価値・史跡整備の必要性等を普及することができた。

●空き町家の活用検討調査

伝統的木造家屋等を保存・活用するため、伝統的木造家屋の所有者調査を行い、中宇治地域の現状把握に努めた。また、空き家対策の庁内体制を確立した。

●文化財見学会

文化財の普及・啓発のため、庵寺山古墳の一般公開や小中学生の文化財見学会を実施することにより、宇治の歴史や文化財への理解を促すことができた。



宇治上神社本殿の修理 H26.12



庵寺山古墳の一般公開の様子 H29.6

④ 自己評価

史跡整備や文化財見学会等を通じて、史跡の歴史的価値を普及するとともに、文化財の普及・啓発を図ることができた。

また、松殿山荘、宇治古墳群、宇治山について、それぞれ重要文化財、史跡、名勝の指定を受け、重要な建造物や宇治橋周辺の景観を保全することができた。

⑤ 今後の対応

引き続き、文化財等の保存・活用の取り組みを進めるとともに、空き町家の活用検討調査では、今後どのような町家を積極的な活用物件として取り扱うべきかについて、調査・検討を行っていく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
方針	IV 宇治らしい景観の保全・修景を図る	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】近年、生活様式の変化などによる歴史的建造物の建替えが進み、マンション建設による急激な景観の変化、現代的建築物による周辺景観との不調和、駐車場化によるまちなみの連続性の喪失などが起こっている。  
 【方針】宇治らしい景観の保全と形成のため、景観計画の策定、修景助成、屋外広告物助成など様々な景観政策に取り組んでいる。これにより、市民意識の向上や景観保全、景観誘導を促しており、今後も継続してこの取組を推進する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	重要文化的景観保存事業	建造物の修理・修景：15件(H24～30) 茶畑の復旧：9件(H25) 5件(H30)	あり	H24～
2	無電柱化事業	詳細設計(H30～)	あり	H30～R2
3	建物修景助成事業	22件に補助(H22～30)	あり	H22～
4	屋外広告物助成事業	11件に補助(H22～30)	あり	H22～
5	文化的景観整備計画策定調査	文化的景観整備計画策定(H27)	あり	～R3

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●重要文化的景観保存事業

「宇治の文化的景観」の景観重要構成要素である建造物の修理・修景を実施したことで、市民の文化的景観への理解度を高めることができた。

宇治の近代化を象徴する建物である「旧丸五百貨店」では、活用上の利便性に配慮した修理・修景を実施した。

●建物修景助成事業・屋外広告物助成事業

宇治市景観計画重点区域内の建築物や工作物、屋外広告物の整備に対する景観形成助成を行うことで、良好な景観の形成を図ることができた。

●文化的景観整備計画策定調査

「宇治の文化的景観」整備計画を策定し、計画区域の拡大や重要構成要素の拡大に向けた地元調整や建物所有者との協議を行うことで、景観保全に対する意識の向上を図ることができた。



旧丸五百貨店の修理 H30.3

④ 自己評価

文化的景観に関する建造物の修理や各種の景観助成の実施により、良好な景観の形成が図られるとともに、住民の景観保全に対する意識の向上を図ることができた。

⑤ 今後の対応

- ・「宇治の文化的景観」整備計画に基づき、宇治の歴史的特色を活かした修景整備や、茶業関連の家屋等の整備活用を推進するとともに、沿道景観と一体をなす祭礼や民俗行事などの無形的要素に関する支援策や情報発信なども含めた、宇治らしい景観づくりを行っていく。
- ・地域住民の景観に対する意識を高め、住民が主体的に良好な景観の形成に取り組む手法の検討を行っていく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
方針	V 歴史のまちにふさわしい観光振興を図る	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】本市の観光客の平均滞在時間は約3時間と短い。また、観光シーズンには宇治橋を中心に渋滞が発生し、狭隘な道路に自動車が入ることや、近年の豪雨により道路が冠水するなど、歩行者が安心して散策しづらい環境であるとともに、大規模駐車場が少ないため、一極集中化する駐車場が問題視されている。加えて、観光シーズンの無秩序な駐輪や、複数設置されている案内誘導標識が、円滑な歩行者の往来や景観を阻害する状況もみられる。

【方針】本市の歴史的風致の維持向上には来訪者の賑わいは不可欠であり、今後も宇治に人が訪れ続けるよう、歴史・文化遺産を活かした新たな観光振興策を検討し、まち全体を楽しむ参加体験型の観光振興を図る。また観光シーズンの渋滞緩和や一極集中する駐車場不足の対応のため、観光駐車場対策の検討と併せて、公共交通の利用促進に取り組む。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歩道整備事業	L=100m区間を整備（～H29）	あり	H21～33
2	歩行空間整備事業	L=328mフットライト整備	あり	H24～32
3	観光施設周辺浸水対策事業	塔ノ島周辺地域 2箇所	あり	H27～32
4	観光サイン等整備事業	工事実施数 18基(H29) 15基(H30)	あり	H29～32
5	観光交通対策検討調査	旅行時間調査、現地誘導、情報発信	あり	H25～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●歩道整備事業

歴史公園と宇治川周辺の歴史・文化資源を結ぶ歩道・道路を整備することで、歴史に触れながら安心して散策できる快適な歩行空間を確保できた。

●観光施設周辺浸水対策事業

塔ノ島周辺地域において、雨水排水機場の排水能力向上のための工事を実施した。併せて観光施設及び周辺道路の浸水を防止するため、排水施設の改良工事を実施したことで、宇治川河畔の歩行者が安心して散策できる環境の構築ができた。

●観光サイン等整備事業

宇治市観光案内サイン整備ガイドラインに基づき、宇治橋周辺地域の観光案内サインの多言語化等の整備を行い、国内外からの観光客が歴史・文化資源や歴史的まちなみ等を回遊しやすい環境の構築ができた。

●観光交通対策検討調査

駐車場の情報発信や現地誘導等を実施し、観光シーズンの渋滞緩和や一極集中する駐車場不足の対応に努めた。



歩道整備事業

H30.3

④ 自己評価

歩道整備や浸水対策の実施により、歩行者が安心して散策できる環境の構築ができた。

また、観光案内サインの整備により、歴史・文化資源や歴史的まちなみの回遊性の向上を図ることができた。

⑤ 今後の対応

・引き続き、観光サイン等の整備を進めるなど、国補助金を積極的に活用して、国内外からの観光客の受け入れ環境の充実を図る。また、新たな資源を検討するなど、市全体の魅力的な資源を活かして、さらなる観光誘客を図る必要がある。

・観光シーズンの観光交通対策では、観光交通対策検討調査で実施している旅行時間調査の結果が出た段階で、観光交通に対する有効な施策の検討を行っていく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
効果	まちづくり活動の活性化		

① 効果の概要

歴史的なまちづくりの意識の向上により、まちづくり協議会を通じた住民主体によるまちづくりが進展した

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	宇治市第5次総合計画	あり	H23～R3

市民主体による取組を支援するため、本市で認定を行った地区まちづくり協議会に対し、出前講座の実施やまちづくり専門家の派遣、活動費助成などを行っている。

現在、本市で認定を行った地区まちづくり協議会は8団体あり、本計画の重点区域内では下記の2団体が住民主体によるまちづくりを進めている。

③ 効果発現の経緯と成果

歴史的風致維持向上計画の策定や計画に基づく各種事業の実施により、歴史的な沿道景観の保全や地域の伝統文化の継承への意識を高めることにつながっており、これらの取組は、まちづくり協議会における、地区の目指すまちづくりにおいて、歴史的なまちづくりに対する意識の高まりに寄与し、協議会活動の活性化が進んでいる。

●白川区まちづくり協議会

「白川区まちづくり協議会」は、平成20年度に本市として、初めての地区まちづくり協議会としての認定を行い、住民によるまちづくり活動が積極的に行われている。平成28年度には「白川区地区まちづくり計画」が策定され、市で認定を行った。計画では、「歴史文化遺産と景観を守り、伝統行事を未来に伝えよう」をメインテーマとして、様々な取組が行われており、中でも地域の神社で行われる虫干し祭りなどの祭礼に毎年取り組むなど、地域の伝統行事を次の世代に継承し、地域の魅力や人のつながりを高めることで、定住の促進に努めている。

●平等院表参道まちづくり協議会

「平等院表参道まちづくり協議会」は、平等院表参道が国内外の来訪者を迎えるにふさわしい通りとなることを目指し、沿道の事業者・住民・行政等が協働して、地域の歴史的・文化的な背景を活かした良好な景観づくりを進めることを目的として発足し、平成28年度に本市で7つめの地区まちづくり協議会として認定を行った。平成30年度から月に1回、勉強会「みんなの茶話会」を実施するなど、協議会や地域住民が主体となって、まちづくりについての話し合いや検討が行われている。



白川の景観



虫干し祭りの様子



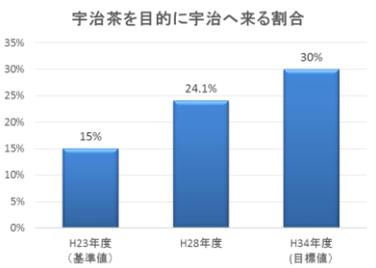
「みんなの茶話会」の様子

④ 自己評価

地域住民の意識の向上により、まちづくり計画の策定やまちづくり協議会での勉強会が活発に行われるなど、住民主体によるまちづくり活動が活性化した。

⑤ 今後の対応

地域住民が主体となるまちづくりを促進するため、引き続き、歴史的風致維持向上計画の各種事業と連携を図り、地域住民自らが歴史的風致の担い手であるという認識を高め、宇治の個性や魅力を継承するまちづくりの活性化が図れるよう、地域住民や協議会に対して各種支援を実施していく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年																
効果	ii 宇治茶のブランド価値の向上																		
<p><b>① 効果の概要</b></p> <p>「宇治茶の普及とおもてなしの心の醸成に関する条例」制定に伴う各種事業の推進により、市内産宇治茶のブランド価値の向上に繋がった。</p>																			
<p><b>② 関連する取り組み・計画</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>宇治市第5次総合計画</td> <td>あり</td> <td>H23～R3</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略</td> <td>あり</td> <td>H27～31</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>宇治市観光振興計画</td> <td>あり</td> <td>H25～R4</td> </tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	宇治市第5次総合計画	あり	H23～R3	2	宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略	あり	H27～31	3	宇治市観光振興計画	あり	H25～R4
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	宇治市第5次総合計画	あり	H23～R3																
2	宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略	あり	H27～31																
3	宇治市観光振興計画	あり	H25～R4																
<p>数ある日本茶の中でも高級茶の代名詞とも言える宇治茶は、本市の重要な産業になっている。しかし、近年の生活様式の多様化や飲料の種類増加などにより、抹茶はもとより急須でお茶をいれる習慣が薄れ、茶を振る舞うおもてなしの機会が減少している。</p> <p>これらを背景に、市民、茶業者及び市の役割等を明らかにし、宇治茶の普及や宇治茶によるおもてなしの心を醸成することを目的として、平成26年度に「宇治茶の普及とおもてなしの心の醸成に関する条例」を制定した。</p>																			
<p><b>③ 効果発現の経緯と成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 市内産宇治茶ブランド化推進事業 宇治茶商工業協会と共同開発したオリジナル茶「碾玉」の積極的な販売の支援・PRを実施した。また、「宇治碾茶」の商標登録の申請に係る支援を実施した。</li> <li>● 宇治茶おもてなし推進事業 宇治市を含む山城地域をターゲットとするお茶を中心とした地域振興、観光振興に関するプロジェクトである「お茶の京都」構想に係る各種イベントに参加し、市内産宇治茶の普及啓発を図った。</li> <li>● 市民茶摘みのつどい・宇治茶巡りガイドツアー 実際に茶摘みを体験してもらう「市民茶摘みのつどい」や、市民によるボランティアガイドの案内により、宇治茶に関する施設見学等を行う無料ガイドツアーを実施した。</li> </ul> <p>宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、宇治茶に関する取組の効果検証を行うため、観光動向調査における「宇治茶を目的に宇治へ来る割合」を指標としており、平成23年度に15%であったものが、平成28年度には24.1%に増加しており、この間の取組により一定の効果が調査結果にも現れている。</p>																			
<p><b>④ 自己評価</b></p> <p>「宇治茶の普及とおもてなしの心の醸成に関する条例」に基づく各種事業の取組等により、観光客が「宇治茶を目的に宇治へ来る割合」は増加してきていることから、宇治茶のブランド価値の向上につながっている。</p>		 <p>市民茶摘みのつどいの様子 H29.5</p>  <p>宇治茶を目的に宇治へ来る割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H23年度 (基準値)</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>H28年度</td> <td>24.1%</td> </tr> <tr> <td>H34年度 (目標値)</td> <td>30%</td> </tr> </tbody> </table> <p>宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略の重要業績評価指標 （観光動向調査で宇治茶を目的に宇治へ来る割合等を把握）</p>		年度	割合	H23年度 (基準値)	15%	H28年度	24.1%	H34年度 (目標値)	30%								
年度	割合																		
H23年度 (基準値)	15%																		
H28年度	24.1%																		
H34年度 (目標値)	30%																		
<p><b>⑤ 今後の対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宇治茶ブランド力の強化による市場価値の向上と観光誘客による産業育成を図るため、事業効果を検証しながら、国内外への宇治茶のPR強化などを進め、引き続き、宇治茶を活用した様々な事業を実施していく。</li> <li>・ 「お茶の京都」構想に関する取組を、京都府をはじめとした関係団体と連携を図りながら、広域的な取組もあわせて引き続き推進していく必要がある。</li> <li>・ 日本遺産に認定された「日本茶800年の歴史散歩」を活かしながら、関係機関と連携し、より効果的な取組を推進していく。</li> </ul>																			

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
効果	iii 探究的な学習の充実		

① 効果の概要

歴史的風致維持向上計画の策定により、宇治の特性である宇治の歴史や宇治茶を活かした歴史まちづくりの機運が高まるなかで、小中一貫教育における独自の学習項目の設置を通じて、宇治のことを知ることにより、主体的・創造的・協働的な探究学習の充実を図ることができた。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	宇治市第5次総合計画	あり	H23～R3
2	宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略	あり	H27～31
3	宇治市教育振興基本計画	あり	H26～R3

本市では、小中一貫教育の特色のひとつとして、総合的な学習の時間を「宇治学」と称し推進している。この「宇治学」推進への支援を目的に、全小中学校で「宇治で学ぶ、宇治を学ぶ、宇治のために学ぶ」のコンセプトのもと、共通して学ぶ内容を各学年（小学校3年生～中学校3年生）の重点単元として再構築し、具体化するとともに、各小中学校で実施する「宇治学」の探究学習が一層充実したものとなるよう、「宇治学」副読本を作成した。

③ 効果発現の経緯と成果

●「宇治学」推進事業

【「宇治学」副読本の作成】

平成29年度より小学校3年生・6年生、平成30年度より小学校4年生、中学校1年生で副読本を活用した授業を実施している。

【「抹茶体験授業」への支援】

平成27年度に「宇治茶スタートセット」として、抹茶碗・抹茶等を各小学校に配付した。小学校3年生の「宇治学」における「抹茶体験授業」の支援を行うため、その後も抹茶を年2回配付している。

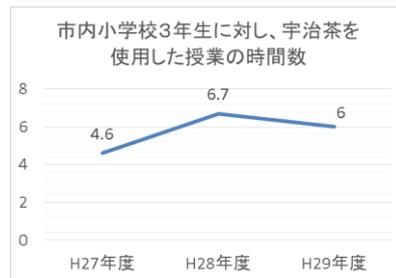
●宇治の魅力体験支援事業

平成28年度より3年間限定で、小学校6年生に対し、宇治の魅力を知り体感することで宇治への愛着を深めるため、世界遺産の平等院、宇治上神社などの見学を実施した。

これらの事業を通じて、本市の子どもたちが「ふるさと宇治」の魅力を知り、体感することで宇治への愛着が深まるとともに、主体的・創造的・協働的な探究学習の充実を図ることができた。



「宇治学」副読本 小学校4年生



宇治茶を使用した授業時間推移

④ 自己評価

「宇治学」副読本を活用した授業の実施により、子どもたちの「探究的な学習」の充実を図ることができた。

⑤ 今後の対応

- ・持続可能な「ふるさと宇治」の未来を担う子どもたちが、本市の現状や課題、可能性を考え、「宇治学」副読本のゴールである市への提案ができるような取組の支援を推進する。
- ・本市の子どもたちが宇治の魅力をさらに知るための契機となるよう、市内小学校3年生に対する宇治茶を使用した授業の時間数について、目標とする授業時間の確保を図っていく。
- ・各学年のテーマに沿った体験学習等の充実のため、関係機関と連携を図り、取組を進めていく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
取り組み	A 情報発信・観光交流施設整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

情報発信・観光交流施設整備事業は、史跡宇治川太閤堤跡の隣接地において、宇治の歴史や文化、宇治茶の魅力を情報発信する施設として整備する。本事業は、民間活力導入の推進を図るため、本市で初めてPFI方式を採用して事業を進めている。

【主な取り組み内容】

- ・H27年度 実施方針の策定  
特定事業の選定・評価
- ・H28年度 計画の見直し
- ・H29年度 実施方針(変更)の策定  
特定事業の選定・評価  
募集要項等の公表  
事業者の募集
- ・H30年度 事業者の選定・公表  
事業契約の締結  
設計業務



歴史公園イメージ図



歴史公園配置図

② 自己評価

本事業は本市で初めてのPFI方式による事業の実施であり、平成27年度から国が示す「PFI事業のプロセス」に従って取組を進めるとともに、国庫補助金を活用して用地取得を行ってきた。平成30年度には事業者と契約締結を行い、事業者とともに庁内関係部署を含めた協議会を設置し、事業者提案に基づき設計業務を進めている。

外部有識者名	嵯峨美術大学名誉教授 坂上英彦(都市及び地方計画、国際観光、まちづくり)
外部評価実施日	平成31年3月8日

③ 有識者コメント

本事業は、歴史・文化資源を活かしながら、民間活力の導入によるノウハウの活用やコストパフォーマンスを追求した挑戦的な内容を持ったものとして評価できる。

課題としては、景観面に配慮したハード面に加えて、観光客・市民が感動するソフト面に注力する必要がある。特に、地元の人の顔がみえる京都・宇治ならではの物語性を持ったおもてなし、インバウンドを視野に入れた情報発信などにより、満足度の高い永続的な収益事業の構築を期待したい。

④ 今後の対応

- ・平成32年度末の施設の完成に向けて、事業者と協議・調整を図っていく。
- ・引き続き、市民や関係機関に向けて、事業の認知度の向上を図り、民間事業者との様々な連携を構築していく。
- ・事業者からの提案を基に、庁内関係部署をはじめ、関係機関・関係団体等を調整し、満足度の高い情報発信施設としていく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
取り組み	B 史跡整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p><b>① 取り組み概要</b></p> <p>史跡整備事業は、史跡宇治川太閤堤跡を活用した公園を整備することで、築堤時と埋没時の宇治川太閤堤を再現し、太閤堤の果たした役割と歴史の重層性を表現することとしている。築堤時の様子を再現するゾーンは遺構再現パネルとして整備し、埋没時の様子を再現するゾーンは修景茶園として整備する。</p> <p><b>【主な取り組み内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H25年度 遺構再現方法の確認、レンガ窯跡発掘調査</li> <li>・H26年度 遺構再現パネル製作(133㎡)、発掘調査現地説明会（約100名参加）</li> <li>・H27年度 遺構再現パネル製作(86.5㎡)、修景茶園実施設計パンフレット配布、フォーラム開催</li> <li>・H28年度 遺構再現パネル製作(9.6㎡)・設置(263.2㎡)小学生・市民参加による茶樹の植樹</li> <li>・H29年度 展望デッキ設置、発掘調査、フォーラム開催</li> <li>・H30年度 園路整備、給排水設備等の設置、発掘調査</li> </ul>			<p>石張り部を再現したGRCパネル H29.2</p>
<p><b>② 自己評価</b></p> <p>壮大な築堤状況が体感できる空間整備として、遺構再現パネルや展望デッキの整備、宇治十帖スタンプラリー特別ポイントの設置などに加え、修景茶園の整備では市民とともに茶樹の植樹を行うなど、市民や来訪者が楽しみながら史跡への理解を深める機会の創出を行った。</p> <p>併せて、パンフレットの配布やフォーラムの開催により、多くの市民や来訪者に本市の歴史や文化の歴史的価値、必要性等の普及を図ることができた。</p>			<p>太閤堤フォーラム H29.12</p>
外部有識者名	京都大学名誉教授 上原真人（考古学、宇治市文化財保護委員会委員長、宇治市文化的景観検討委員会副委員長）		
外部評価実施日	平成31年1月31日		
<p><b>③ 有識者コメント</b></p> <p>史跡宇治川太閤堤跡を再現したGRCパネルは、本物と見まごうばかりの出来映えで、今後、石出しや杭出しを実際の石積みや木杭で再現し、周囲を水で満たせば、近世初頭の土木技術を具体的に体感できる史跡として、社会教育や観光に大いに活用できる。京阪宇治駅にも近接するので、隣接する修景茶園や宇治上神社・平等院、三室戸寺や萬福寺、白川、新たに国名勝となった宇治山、国史跡となった宇治古墳群などを訪れる時の拠点としての役割も期待できる。</p>			
<p><b>④ 今後の対応</b></p> <p>平成21年7月に国史跡指定を受けた宇治川太閤堤跡の良好な保存・活用を行うため、引き続き史跡整備を図るとともに、隣接地で実施する情報発信・観光交流施設の整備と合わせて本市の歴史・文化をわかりやすく伝える取組を行っていく。</p>			

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年																					
取り組み	C 重要文化的景観保存事業	種別	歴史的風致維持向上施設																					
<p><b>① 取り組み概要</b></p> <p>重要文化的景観「宇治の文化的景観」の本質的価値を構成する景観重要構成要素である家屋や茶畑等について、文化的景観保存管理計画に基づいた修理を実施した。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要文化的景観整備基本計画策定（H24年度）</li> <li>・被災した景観重要構成要素（茶畑）の復旧：9件（H25年度） 5件（H30年度）</li> <li>・景観重要構成要素の修理・修景事業（H25年度～）</li> </ul> <p style="text-align: right;">旧京都府茶業会議所 H29.1</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施件数</th> <th>実施箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25年度</td> <td>1件</td> <td>中村藤吉本店</td> </tr> <tr> <td>H26年度</td> <td>1件</td> <td>中村藤吉本店、旧菊屋萬碧楼建物、上林春松家長屋門</td> </tr> <tr> <td>H27年度</td> <td>3件</td> <td>中村藤吉本店、旧丸五百貨店建物、旧京都府茶業会議所建物</td> </tr> <tr> <td>H28年度</td> <td>1件</td> <td>旧京都府茶業会議所建物</td> </tr> <tr> <td>H29年度</td> <td>3件</td> <td>福文製茶場屋根、旧丸五百貨店外壁、岩井勘造商店茶工場</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>1件</td> <td>岩井勘造商店</td> </tr> </tbody> </table>				年度	実施件数	実施箇所	H25年度	1件	中村藤吉本店	H26年度	1件	中村藤吉本店、旧菊屋萬碧楼建物、上林春松家長屋門	H27年度	3件	中村藤吉本店、旧丸五百貨店建物、旧京都府茶業会議所建物	H28年度	1件	旧京都府茶業会議所建物	H29年度	3件	福文製茶場屋根、旧丸五百貨店外壁、岩井勘造商店茶工場	H30年度	1件	岩井勘造商店
年度	実施件数	実施箇所																						
H25年度	1件	中村藤吉本店																						
H26年度	1件	中村藤吉本店、旧菊屋萬碧楼建物、上林春松家長屋門																						
H27年度	3件	中村藤吉本店、旧丸五百貨店建物、旧京都府茶業会議所建物																						
H28年度	1件	旧京都府茶業会議所建物																						
H29年度	3件	福文製茶場屋根、旧丸五百貨店外壁、岩井勘造商店茶工場																						
H30年度	1件	岩井勘造商店																						
<p><b>② 自己評価</b></p> <p>「宇治の文化的景観」の景観重要構成要素は、自然、歴史、生活・生業の三つの観点から特定されており、いずれも宇治の歴史的風致と深い関わりがある。これら景観重要構成要素の修理事業を実施し、さらに積極的な活用を図ることにより、賑わいのある沿道景観の魅力向上や伝統的な茶業の継承に寄与することができた。</p> <p>中村藤吉本店では、母屋の一部を歯科医院として利用していたものを、歯科医院を撤去し、大正期の写真をもとに、その当時の姿に復元した。また、茶商のシンボルである拝見窓を復元した。</p> <p>旧京都府茶業会議所では、老朽化した建物を耐震補強を含む大規模改修を行ったが、再利用可能な部材は可能な限り残し、建築当時の玄関を復活させるなど、建築当初の形に戻した。</p>																								
外部有識者名	京都大学名誉教授 上原真人（考古学、宇治市文化財保護委員会委員長、宇治市文化的景観検討委員会副委員長）																							
外部評価実施日	平成31年1月31日																							
<p><b>③ 有識者コメント</b></p> <p>中村藤吉本店は、修理事業の結果、明治期茶商の宅地・店舗の姿を取り戻し、JR宇治駅に近いこともあって、重要文化的景観のかなめとしての機能を果たしている。また、旧京都府茶業会議所建物も、修理事業によって本来の姿を取り戻し、隣接する宇治茶道場「匠の館」などともタイアップして、宇治茶文化保存事業、宇治茶振興事業、宇治茶振興に対する助成事業など、京都の茶文化発信の拠点として機能している。</p>																								
<p><b>④ 今後の対応</b></p> <p>今後も、未修理の景観重要構成要素の修理事業を継続し、賑わいのある沿道景観の魅力向上や伝統的な行事等の継承を図っていく。</p>																								

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
歴史的風致	1 遊覧と参詣 宇治川河畔の歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 宇治の歴史・文化を分かりやすく情報発信する III 多様な歴史的遺産の保存・活用を推進する V 歴史のまちにふさわしい観光振興を図る		

① 歴史的風致の概要

宇治川の川船は薪や物資などの運搬によく利用されていたが、宇治遊覧の重要な要素でもあった。江戸期の名所図などには、船で宇治川を遊覧する様子や夏の蛍狩りに船を出して愛でる姿が描かれている。近年では蛍狩りはなくなったものの、宇治川の船遊覧は今も主に春から夏にかけて、多くの観光客が楽しんでいる。

また、宇治川とその河畔には、今も平安時代から変わらない山紫水明の眺めを愛でており、平等院を始めとする古社寺への詣でや、『源氏物語』などにゆかりのある古跡を巡りながらの遊覧、あるいは船で遊ぶ人々の風景を今も見る事ができる。

② 維持向上の経緯と成果

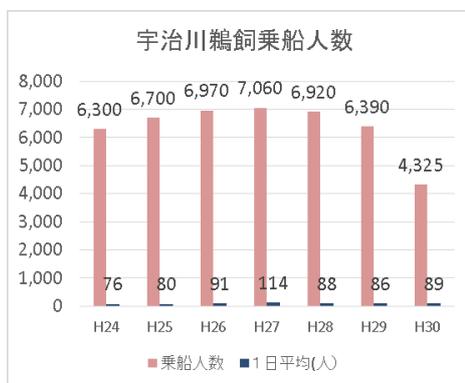
宇治川の鶺鴒船は全国でも珍しい女性の鶺鴒匠が活躍するなど、大正時代に再興されて以降、伝統的な取組の継承が行われている。

平成30年度の鶺鴒船の乗船人数は、台風などの影響により営業日数が少なかったため、例年より減少したが、女性鶺鴒匠の活躍や全国で初めての鶺鴒の人工孵化の成功など積極的にPRを実施したことにより、1日あたりの乗船人数は高水準を維持している。

追い網を使わない「放ち鶺鴒」の検討を行うなど、新たな集客の取組を進めている。

そのほかにも、宇治川河畔では歴史のまちにふさわしい新たな観光資源の模索を進めるなかで、平成30年度に宇治川をゴム製のカヌーで下るイベント（宇治川Eポート体験）が実施されるなど、民間事業者による新たな取組が行われた。

また、宇治川東岸にある国宝宇治上神社本殿および拝殿では、屋根葺替修理を実施し、価値の継承を図るとともに、周辺地域の浸水対策や散策路のフットライト整備を実施することで、歴史・文化資源や歴史的まちなみの回遊性の向上につながった。



宇治川鶺鴒乗船人数の推移

③ 自己評価

宇治川河畔での遊覧に関する取組やイベントを継続して実施することで、夏の風物詩として定着するとともに、賑わいの創出にも繋がっている。

また、文化財の修理により、価値の継承が図られることで、歴史的景観をより魅力的に伝えられるとともに、併せて周辺地域での浸水対策や歩行空間の整備を行うことで、古社寺を詣でるための回遊性の向上に寄与している。

④ 今後の対応

- ・歴史的な沿道景観との調和や道路景観の改善のため、世界遺産の平等院に隣接する散策路の無電柱化を実施していく。
- ・宇治川Eポート体験など、民間事業者の新たな取組への協力を引き続き実施していく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
歴史的風致	2 茶どころ宇治の歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 宇治の歴史・文化を分かりやすく情報発信する II 伝統文化・伝統行事の継承と振興を図る IV 宇治らしい景観の保全・修景を図る		

① 歴史的風致の概要

【覆下茶園の歴史的風致】

宇治の茶園の多くは、新緑の芽が息吹き始めた4月頃、茶園に覆いが施され、茶園全体を隠してしまう「覆下」と呼ばれる栽培方法であり、本市固有の茶園景観ができあがる。茶葉が十分に育った頃には、手摘みをするお茶摘みさんの姿をあちこちで見ることができる。

【お茶屋さんの歴史的風致】

宇治では、茶を扱うお店を親しみを込めて「お茶屋さん」と呼ぶことが多く、平等院表参道や宇治橋通り、県通り、あさぎり通りには多くの「お茶屋さん」が店を広げており、その景観は、宇治茶師の技と伝統を継承してきた、茶どころ宇治ならではの風情を醸し出している。

② 維持向上の経緯と成果

●宇治茶園支援事業

宇治茶の伝統的製法である「本簀」による生産の支援や、茶摘み時期に欠かせない「お茶摘みさん」の斡旋の支援を行うことで、本簀栽培の保存や技術継承及び手摘み茶の推進につながった。



「本簀」の覆下茶園

●重要文化的景観保存事業

「宇治の文化的景観」の景観重要構成要素は、自然、歴史、生活・生業の三つの観点から特定されており、いずれも宇治の歴史的風致と深い関わりがある。これら景観重要構成要素である建造物や茶畑等について、修理、復旧の支援を実施し、積極的な活用を図ることにより、賑わいのある沿道景観の魅力向上や伝統的な茶業の継承に寄与することができた。



●建物修景助成事業

歴史の重層性や伝統的な茶業を感じさせる家屋や伝統的な建造物、近代期の商業店舗に対して修景助成を行うことにより、宇治らしい沿道景観の保全と形成を促進し、賑わいと風情あふれるまちづくりが推進された。

特に、宇治橋通りでは、無電柱化や建物修景助成によるまちなみの変化や、シンポジウム等の実施により、地域住民や事業者の景観に対する意識の醸成につながっている。その結果、地域住民等の自主的な取組が進み、沿道景観の改善や賑わいの創出につながっている。



宇治橋通りにある建築物の修景

H28.11

③ 自己評価

茶業に関する家屋や建造物等の修理・修景により伝統的な茶業の継承や歴史的な沿道景観の保全と形成が図られ、賑わいと風情あふれるまちづくりの創出につながっている。

④ 今後の対応

・宇治茶の伝統的な製法の継承や高品質茶の生産の支援を行うとともに、現在整備を進めている、（仮称）お茶と宇治のまち歴史公園において、宇治茶の魅力発信を行い、茶業の更なる振興に取り組んでいく。

・重要文化的景観に選定された宇治の文化的景観を守り、市民の誇りにつなげていくため、文化的景観のPRに努めるとともに、保護に必要な修景整備等を進める。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
歴史的風致	3 宇治に伝わる祭礼の歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 伝統文化・伝統行事の継承と振興を図る IV 宇治らしい景観の保全・修景を図る		

① 歴史的風致の概要

【大幣神事の歴史的風致】

大幣神事は、「大幣」と呼ばれる大きな御幣を、古式ゆかしい行列とともに三角形街区を巡行させて疫神を集め、宇治川に流して祓うものである。巡行する様子は、宇治で数百年にわたって培われ積み重なってきた歴史の厚みが、まちなかに放散されるような風情と賑いを伝えている。

【離宮祭の歴史的風致（宇治神社と宇治上神社の祭礼）】

宇治に継承される祭礼の最も古いものとして、離宮社であった宇治神社と宇治上神社の神幸祭と還幸祭がある。離宮祭は、歴史の激動に翻弄されてきたが、祭礼を担ってきた地域の人々のまともりは継承され、宇治地区・榎島地区の氏神の祭りに姿を変えながら、今も守られている。

【白川白山神社の歴史的風致】

宇治の中心部から南東に向かってある白川には、平安時代に創建された金色院で行われていた神事が、地域の人々によって伝統的な祭礼として守り伝えられており、静寂な谷里景観と相まって、趣のある歴史的な風情を今も見る事ができる。

② 維持向上の経緯と成果

●大幣神事の保全・継承

大幣神事は地域住民の有志によって構成される「大幣座」により毎年6月に実施されている。平成24年に宇治市無形民俗文化財として指定を行ったことにより、運営に対する補助の拡充を行い、財政面での健全化を図ることができた。

また、近年は世代交代による若者の参加や後継者育成が図られるなど、人材面でも文化財の保全・継承が進められている。

●白川区地区まちづくり計画の認定

白川では、歴史文化遺産と景観を守り、伝統行事を未来に伝えることなどを目的として、平成19年に白川区まちづくり協議会が設立され、翌年に市で協議会の認定を行った。その後、まちづくり専門家の派遣や活動費助成などの支援を行い、平成28年に白川区地区まちづくり計画が策定された。

計画の策定により、伝統行事を記録に残し、次の世代に引き継いでいく取組が行われている。

白川にある白山神社の祭礼は、春祭り、虫干し祭り、秋祭り、御火焚祭りの年4回行われ、秋祭りの前夜に行われる「百味の御食」は、白山神社に供えられる神饌のことであり、今も変わらず伝えられている。



大幣神事の様子



百味の御食を作る様子

③ 自己評価

文化財への補助やまちづくり協議会への支援を通じて、伝統祭礼の保存や継承を図ることができた。

④ 今後の対応

- ・引き続き、文化財の保全・継承を図るため、大幣神事への補助を行っていく。
- ・白川では、まちづくり協議会の計画に基づく取組に支援を行うことで、地区のコミュニティ形成を図るとともに、文化や行事の自発的な保存や継承を促していく。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
------	-----	--------	----------

① 庁内組織の体制・変化

計画の推進にあたり、市民の声を取り入れるとともに、関係課で組織する「歴史まちづくり推進調整会議」で調整を図っている。

平成26年度からは、組織改編により文化財保護と景観に関する事務を都市整備部内の「歴史まちづくり推進課」で実施することとなった。同一の部署において事務を実施することで、法律や補助制度の円滑な情報共有が可能となり、文化財保護行政と景観行政が一体となった歴史まちづくりの推進を図ることができた。

平成30年度には、空き家対策において、関係する12室・課の所属長を担当課長とする組織体制を確立し、「宇治市空き家等対策計画」を策定した。空き町家の活用については、空き家対策の取組と連携を図りながら、所有者等の調査を進めるなかで、どのような利活用が可能であるか検討を行っていく。

歴史まちづくり推進調整会議

部 署	
政策経営部	政策推進課
市民環境部	文化自治振興課
	農林茶業課
	商工観光課
教育部	一貫教育課
	生涯学習課
建設総括室	
建設部	建設総務課
	道路建設課
	維持課
	雨水対策課
都市整備部	公園緑地課
	都市計画課
	建築指導課
	交通政策課
	歴史まちづくり推進課（事務局）

② 庁内の意見・評価

① 歴史まちづくりに関する取組を推進するため、必要に応じて「歴史まちづくり推進調整会議」を開催し、情報共有を図ることができた。

② 「宇治市教育委員会事務の補助執行に関する規則」（平成21年制定）により、教育委員会の権限に属する文化財に関する事務を市長部局の職員に補助執行させることとされおり、業務の円滑化が図られている。



歴史的風致維持向上協議会の様子  
(H30年度)

（国・京都府との連携）

歴史的風致維持向上計画の策定により、国・京都府と連携して実施する事業においても、宇治の歴史・文化を活かしたまちづくりの推進が可能となっている。

●宇治公園の整備

宇治川塔の島や世界遺産である平等院、宇治上神社及びその周辺一帯は、国の重要文化的景観にも選定されるなど、景観上重要な地域である。

宇治公園では、市民アンケート、塔の島地区景観構造検討会、宇治川サクラプロジェクト市民ワークショップなどの意見をもとに、国、京都府、宇治市において「宇治公園再生計画」を取りまとめ、現在は本計画に基づき、整備が進められている。



宇治公園の整備後イメージ

●「宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり計画」の認定

宇治川の周辺は自然景観等の観光資源に恵まれており、これらを活用して宇治川の鵜飼、宇治茶まつり等の各種の催しが開かれている。宇治橋の上流にある天ヶ瀬ダムでは、観光資源として活用する取組のひとつとして、平成30年度に見学ツアーが実施され、4日間で133名の参加があった。

平成31年3月には、宇治の歴史的なまちなみと天ヶ瀬ダムを観光基盤とした体験型周遊観光の推進を目的とした計画が国の登録を受け、今後は本計画に基づき、天ヶ瀬ダム周辺の整備を行うとともに、国、京都府、宇治市、その他関係機関と連携を行い、水辺と周辺地域の魅力向上に向けた各種の取組を実施していく。



天ヶ瀬ダム見学ツアーの様子

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
------	-----	--------	----------

① 住民意見

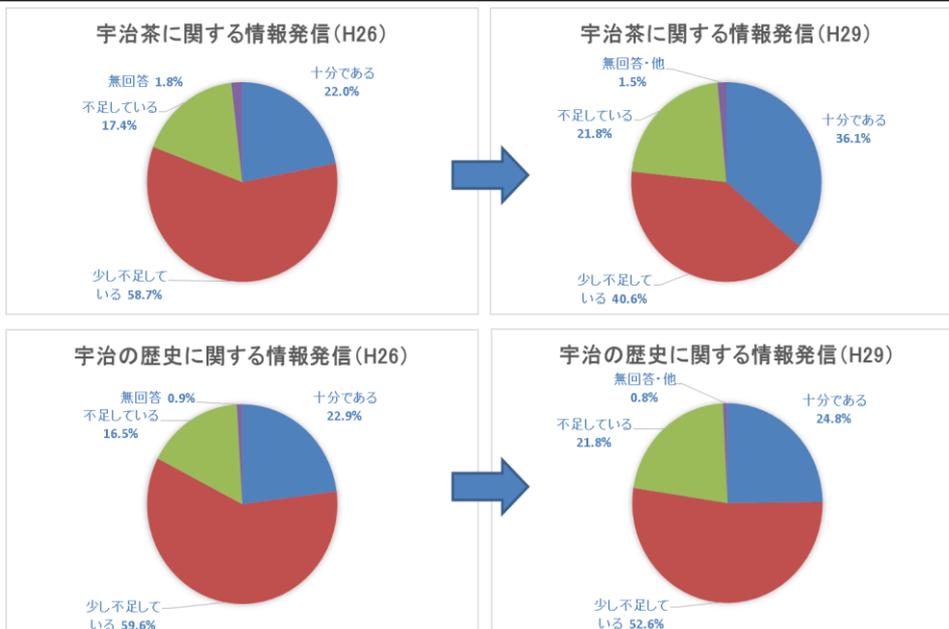
（市政モニターアンケート「宇治市の歴史・文化に関する意識調査」から）

アンケート実施期間：平成27年1月7日～1月21日（n=109）

平成29年9月1日～9月15日（n=133）

【アンケートの質問事項】

- 宇治茶に関する情報発信  
宇治茶の普及啓発のため、パンフレットの発行やイベントの実施などを茶業界や市で行っています。宇治茶に関する情報発信について、現在の状況で十分だと思いますか。
- 宇治の歴史に関する情報発信  
宇治の歴史の普及啓発のため、市政だよりや歴史資料館、様々なフォーラムの開催などにより情報発信に努めています。宇治の歴史に関する情報発信について、現在の状況で十分だと思いますか。



※前回（平成26年度）のアンケートでは、「お茶に関する情報発信」が「十分である」との回答は2割程度であり、この間の様々な取組により一定の効果は上がっているものと考えられる。一方で、「宇治の歴史に関する情報発信」は、ほぼ横ばいとなっており、今後もフォーラムやシンポジウム等を通じて、情報発信が必要である。

② 協議会におけるコメント

（平成31年4月19日開催の宇治市歴史的風致維持向上協議会でのコメント）

【計画全般に関すること】

- ・事業計画（10年間）のスパンが短く、大きな将来展望をもとに計画が立てられていない。
- ・計画を毎年度達成していくというのも大切なことだが、20～30年後を見据えた景観づくりをして欲しい。

【歴史公園整備に関すること】

- ・当初の計画では太閤堤が中心の計画であったが、宇治の観光拠点という形に変わり、良いと思えるようになってきた。
- ・歴史公園の整備は、歴史的風致維持向上計画の中でも重要な事業であるが、計画が具体化していく過程において、協議会への情報提供や議論が十分できていない。

【文化財に関すること】

- ・この数年で国・府の名勝指定が数件あり、今後は宇治市の名勝指定も増えていくことを期待する。
- ・この数年で文化財の調査はかなり進んでいる。

【空き町家に関すること】

- ・空き家対策について、組織で連携を組んで空き家対策等に踏み込んだことは、大きな第一歩である。今後は、空き町家に関して、具体的にどのような対策を実施していくのが課題である。

【中間評価に関すること】

- ・この数年間で宇治橋通りに活気が出てきている。
- ・国・京都府と連携して良くなった部分も記載した方が良い。

【その他】

- ・ひとつの部署で文化財と都市計画に関する行政を実施しており、良いことである。

市町村名	宇治市	評価対象年度	H24～H30年
<p><b>① 全体の課題</b></p> <p>【宇治の歴史・文化の情報発信に関すること】 歴史・文化の情報発信は、市政モニターのアンケート調査でも依然として「不足している」と感じる割合が多く、市民や観光客への効果的な情報発信を図っていくことが課題である。</p> <p>【伝統文化・伝統行事の継承と振興に関すること】 伝統産業である茶業の振興を図るため、減少傾向にある茶園の維持・拡大や後継者の確保などが課題である。</p> <p>【多様な歴史的遺産の保存・活用に関すること】 居住者の減少や高齢化等により、維持管理が困難となる歴史的建造物が増加しており、今後もさらに増加することが想定されるため、その保存・活用が課題である。</p> <p>【宇治らしい景観の保全・修景に関すること】 歴史的な建造物の建替や駐車場化によるまちなみの連続性の喪失が課題である。</p> <p>【歴史のまちにふさわしい観光振興に関すること】 観光シーズンの交通渋滞や狭隘な道路への自動車の進入など、観光客が歩いて楽しめるような観光交通に対する有効な施策の検討が課題である。</p>			
<p><b>② 今後の対応</b></p> <p>【宇治の歴史・文化の情報発信に関すること】 現行の情報発信に関する取り組みを継続するとともに、情報発信の施設として整備する、（仮称）お茶と宇治のまち歴史公園において、市民や観光客に宇治の歴史・文化やお茶の魅力について、わかりやすい情報発信に取り組んでいく。</p> <p>【伝統文化・伝統行事の継承と振興に関すること】 伝統的な手摘みや覆下などの栽培技術を継承していき、さらなる宇治茶のブランド力の向上に努めるとともに、高品質茶の生産の支援や優良茶園の保全、後継者育成等の支援を行う。 また、（仮称）お茶と宇治のまち歴史公園でも「本簀」の技術の伝承に向けて取り組んでいく。</p> <p>【多様な歴史的遺産の保存・活用に関すること】 伝統的木造家屋の活用は、賑わいと風情あるまちなみの継承につながることから、市で実施する空き家対策などとともに、どのような建造物を積極的な活用物件として取り扱うかなど、取組の方向性と効果的な支援策の検討を行う。</p> <p>【宇治らしい景観の保全・修景に関すること】 歴史的なまちなみを保全するため、地域住民の景観に対する意識を高め、住民が主体的に良好な景観の形成に取り組む手法の検討を行う。</p> <p>【歴史のまちにふさわしい観光振興に関すること】 観光交通対策に関する調査を引き続き実施していくとともに、調査結果が出た段階で対策の検証を行う。また、回遊性の向上や歴史・文化遺産を活かした観光振興を図るため、観光サイン等の整備を進めていく。</p>			